

三遠南信サミット 2009 in 東三河 サミット宣言

San-En-Nanshin SUMMIT

三遠南信地域は、圏域人口 230 万を擁し、「塩の道」を通じた歴史的、文化的な交流や豊かな自然環境を背景として、都道府県に匹敵する経済規模を誇るなど高いポテンシャルを有する地域です。

また、国土軸を形成する新東名高速道路や、太平洋地域と日本海地域を結び圏域の南北交通の基軸となる三遠南信自動車道の整備が進められ、さらには圏域北部の玄関口となるリニア中央新幹線飯田駅の設置が検討されるなど、将来に向けて更なる発展の可能性を秘めています。

こうしたなか、平成 20 年 3 月には、「三遠南信地域連携ビジョン」をサミットでの合意のもと策定し、目指すべき地域像を「三遠南信 250 万流域都市圏」として、各主体が活動の方向性を一致させ、交流から連携への動きを加速させることとし、平成 20 年 11 月には、「三遠南信地域連携ビジョン推進会議 (S E N A)」を設置し、事務局を開設するなど、圏域の政策調整機能を整備してまいりました。

今回のサミットは、S E N A が主催する初めてのサミットであり、「日本の県境連携モデルの構築」というテーマのもと、「道」「技」「風土」「山・住」の各分科会で、活発な意見交換、議論が進められてまいりましたが、こうした結果を踏まえ、私たち三遠南信地域は、次の事項に重点を置き、日本の県境連携を先導するにふさわしい圏域活動を進めてまいります。

- 1 三遠南信 250 万流域都市圏の骨格となる三遠南信自動車道や浜松三ヶ日・豊橋道路の早期整備、三遠伊勢連絡道路構想の実現、さらには新たな東西軸を形成するリニア中央新幹線飯田駅の設置に向けて、「三遠南信地域連携ビジョン推進会議 (S E N A)」を中心に、地域一丸となって提案活動を進めます。
- 2 新産業の創出と既存産業の活力増進に向けて、知的・産業クラスターの形成など県境を越えた産学官連携による農商工連携や医工連携の取り組みを進めるとともに、県境を越えた大学・研究機関の連携を通じて次代を担う人材の育成を進めます。
- 3 三遠南信地域の地域資源の価値向上のため、塩の道エコミュージアムを構成する歴史・文化的な地域資源や地域の特産品などの情報収集に取り組み、情報発信の機会を創出するとともに、地域資源のネットワーク化やブランド化を進めます。
- 4 広域連携による生活環境の向上を目指して、住民の命を守る医療や防災の連携、美術館や博物館など公共施設の相互利用を進めます。また、中山間地域における定住促進に向けて、都市部との二地域居住など流域定住推進モデルの形成を進めます。

これらの取り組みを、ここに集うすべての主体が確認し、連携から融合に向けて、第 17 回三遠南信サミット 2009 in 東三河のサミット宣言といたします。

平成 21 年 11 月 13 日

三遠南信地域連携ビジョン推進会議
三遠南信サミット 2009 in 東三河